

窓口支援事例 【千葉県 知財総合支援窓口】

企業情報

株式会社デクシス			
所在地	千葉県船橋市2-1-34		
ホームページ URL	http://www.decsys.co.jp/		
設立年	1998年	業種	画像検査装置の開発・製造・販売
従業員数	60人	資本金	10,000万円

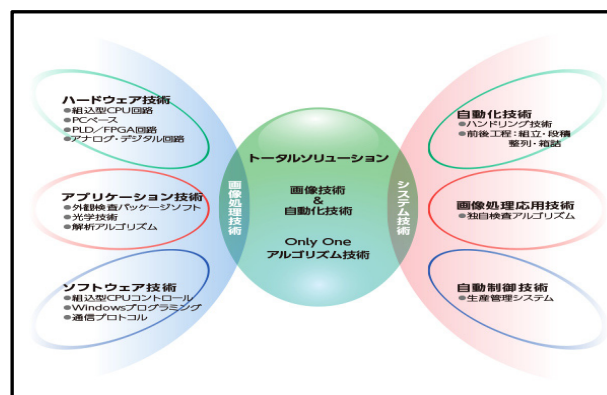
企業概要

画像処理をいかに人間の目、人間の脳に近づけるというテーマのもと、人の目を電子の目に置き換えることで様々な業務の効率化を図り、コストの削減やより多くの注文に応えられる生産体制づくりを提案する画像処理・検査装置の総合技術メーカーです。従来は目視検査で行っていた良否判別（キズ、汚れ、印字、異物など）を自動化や検査の省人化、製造工程における精度の向上への高まりを受けて、食品、医療資材、医薬品など幅広い分野で異物検出や外観検査に DECSYS の製品が採用されています。



自社の強み

世の中には、画像処理メーカーや装置メーカーなど単独での企業は数多く存在します。しかしながら外観検査市場、[画像技術・自動化技術&自社製品]を持ち合わせたメーカーは当社しかありません。当社は、外観検査システムのプロフェッショナル集団として、画像処理技術・システム技術を更に高め、他社には無い独自技術をもってトータルソリューションを提供します。



一押し商品

バイアル粉末異物検査装置（特許第 5307459 号取得）は、バイアル（薬品を容れる透明容器）内に充填された粉末中への異物混入を検出するための装置です。独自の振動技術により、容器内の異物を底面に出現させ、カメラ撮像したライブ映像をモニター上で目視検査することができます（自動検査でも対応できます）。粉末に対する異物の比重に関係なく検査可能です。



バイアル粉末異物検査装置 PV-C シリーズ

知財総合支援窓口活用のポイント

窓口活用のきっかけ

同社には昨年度、連携先の公益社団法人千葉県産業支援センターからの紹介で、開発品の知財保護のため、知財専門家（弁理士）との協力による支援を行いました。その結果、特許出願1件に繋げることができました。今回、同社の知財管理担当者から再度同様の支援を希望され、新規開発品に対する知財保護の支援依頼がありました。

最初の相談概要

開発品に関与した複数の発明者は、千葉・山形・京都に分散していたため、テレビ会議を利用して、「発明の骨子」及びこの開発品の事業展開等の聞き取りを行いました。発明内容は専門性が高かったのですが、事前準備して頂いた「発明の骨子」の説明書により、効率良く理解することができ、知財専門家（弁理士）の協力による支援を要すると判断しました。

その後の相談概要

その後、開発品の事業展開を踏まえた「発明提案書」の作成を支援目的として、知財専門家との協力による5回の支援を行いました。作成した「発明提案書」が、発明内容を捉えるための経営資料としても役立つことも確認しました。さらに、この「発明提案書」に基づき支援した知財専門家に特許出願の依頼があり、1件の特許出願に繋がりました。また、特許出願後の留意点として、審査請求タイミングをどうするか、国内優先権制度の利用及び海外で実施する場合の知財管理等についてのアドバイスもさせて頂きました。

窓口を活用して変わったところ

社内で纏められた「発明の骨子」は、開発品そのものの権利化に注視していましたが、今回の「発明提案書」作成支援により、自社の事業の自由度を得るために、防衛的内容の検討も重要であるとの意識が芽生えてきました。また、「発明提案書」という形で開発成果を纏めることで、開発に関与した複数の発明者間の連帯感も強くなり、さらに経営者側も含め関係者に共通した発明内容の捉え方が早期に行われるとの期待も抱くようになりました。

これから窓口を活用する企業へのメッセージ

「発明提案書」を作成する過程で、開発部門だけでは見落とししてしまうような、事業や知財保護等の観点からの検討を今回の支援で受けることができ、質の高い特許出願ができたことに大変感謝致します。このような支援を手軽に依頼できる知財総合支援窓口は、専門の知財部署の無い中小企業にとっては強い味方です。この窓口の活用をお勧めいたします。

窓口担当者から一言（氏名：齋藤 廣志）



同社は、近時「千葉元気印企業大賞」を受賞するなど、常に新技術を追求する意欲的な企業です。今回「発明提案書」作成という支援を通して、関係者間での連帯感が一層強いものになったと思います。今後とも引き続きより一層の支援をさせて頂きたく考えております。

窓口支援事例 【千葉県 知財総合支援窓口】

企業情報

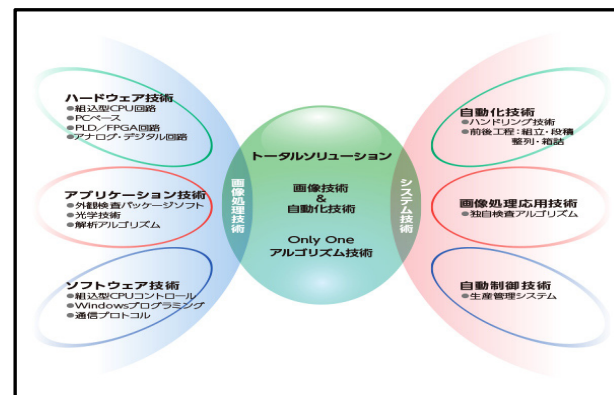
株式会社デクシス			
所在地	千葉県船橋市2-1-34		
ホームページ URL	http://www.decsys.co.jp/		
設立年	1998年	業種	画像検査装置の開発・製造・販売
従業員数	50人	資本金	10,000万円

企業概要

画像処理をいかに人間の目、人間の脳に近づけるというテーマのもと、人の目を電子の目に置き換えることで様々な業務の効率化を図り、コストの削減やより多くの注文に応えられる生産体制づくりを提案する画像処理・検査装置の総合技術メーカーです。従来は目視検査で行っていた良否判別（キズ、汚れ、印字、異物など）を自動化や検査の省人化、製造工程における精度の向上への高まりを受けて、食品、医療資材、医薬品など幅広い分野で異物検出や外観検査に DECSYS の製品が採用されています。

自社の強み

世の中には、画像処理メーカーや装置メーカーなど単独での企業は数多く存在します。しかしながら外観検査市場、「画像技術・自動化技術&自社製品」を持ち合わせたメーカーは当社しかありません。当社は、外観検査システムのプロフェッショナル集団として、画像処理技術・システム技術を更に高め、他社には無い独自技術をもってトータルソリューションを提供します。



一押し商品

バイアル粉末異物検査装置（特許第 5307459 号取得）は、バイアル（薬品を容れる透明容器）内に充填された粉末中への異物混入を検出するための装置です。独自の振動技術により、容器内の異物を底面に出現させ、カメラ撮像したライブ映像をモニター上で目視検査することができます（自動検査でも対応できます）。粉末に対する異物の比重に関係なく検査可能です。



知財総合支援窓口活用のポイント

窓口活用のきっかけ

同社には昨年度、連携先の公益社団法人千葉県産業支援センターからの紹介で、開発品の知財保護のため、知財専門家（弁理士）との協力による支援を行いました。その結果、特許出願 1 件に繋げることができました。今回、同社の知財管理担当者から再度同様の支援を希望され、新規開発品に対する知財保護の支援依頼がありました。

最初の相談概要

開発品に関与した複数の発明者は、千葉・山形・京都に分散していたため、テレビ会議を利用して、「発明の骨子」及びこの開発品の事業展開等の聞き取りを行いました。発明内容は専門性が高かったのですが、事前準備して頂いた「発明の骨子」の説明書により、効率良く理解することができ、知財専門家（弁理士）の協力による支援を要すると判断しました。

その後の相談概要

その後、開発品の事業展開を踏まえた「発明提案書」の作成を支援目的として、知財専門家との協力による 5 回の支援を行いました。作成した「発明提案書」が、発明内容を捉えるための経営資料としても役立つことも確認しました。さらに、この「発明提案書」に基づき支援した知財専門家に特許出願の依頼があり、1 件の特許出願に繋がりました。また、特許出願後の留意点として、審査請求タイミングをどうするか、国内優先権制度の利用及び海外で実施する場合の知財管理等についてのアドバイスもさせて頂きました。

窓口を活用して変わったところ

社内で纏められた「発明の骨子」は、開発品そのものの権利化に注視していましたが、今回の「発明提案書」作成支援により、自社の事業の自由度を得るために、防衛的内容の検討も重要であるとの意識が芽生えてきました。また、「発明提案書」という形で開発成果を纏めることで、開発に関与した複数の発明者間の連帯感も強くなり、さらに経営者側も含め関係者に共通した発明内容の捉え方が早期に行われるとの期待も抱くようになりました。

これから窓口を活用する企業へのメッセージ

「発明提案書」を作成する過程で、開発部門だけでは見落とししてしまうような、事業や知財保護等の観点からの検討を今回の支援で受けることができ、質の高い特許出願ができたことに大変感謝致します。このような支援を手軽に依頼できる知財総合支援窓口は、専門の知財部署の無い中小企業にとっては強い味方です。この窓口の活用をお勧めいたします。

窓口担当者から一言（氏名：齋藤 廣志）



同社は、近時「千葉元気印企業大賞」を受賞するなど、常に新技術を追求する意欲的な企業です。今回「発明提案書」作成という支援を通して、関係者間での連帯感が一層強いものになったと思います。今後とも引き続きより一層の支援をさせて頂きたく考えております。